

平城遷都1300年祭 “日本のはじまり奈良”へ

奈良の地に平城京が誕生してから1300年を迎えることを記念して年明けからスタートした「平城遷都1300年祭」。4月24日にはメイン会場である平城宮跡会場もオープン。全国から多くの観光客を迎え、奈良は大いににぎわい、活気づいている。歴史・文化イベントや各種フォーラムなども県内各地で行われており、平城遷都1300年祭は見どころいっぱいだ。



第一次大極殿

平城遷都1300年祭とは

平城遷都1300年祭のテーマは、“はじまりの奈良、めぐる感動。”日本の歴史・文化が連綿と続いたことを“祝い、感謝する”とともに、「日本のはじまり奈良」を素材に、過去・現在・未来の日本を“考える”ことを目的とした事業である。平城宮跡をメイン会場に、奈良県内各地を新たにネットワークさせることにより、1300年の時空を超えた場と機会が展開されている。

2010年の幕開けとともにまずスタートしたのが、「巡る奈良事業」（1月1日～12月31日）。県内50以上の社寺の協力のもと、秘宝・秘仏の数々が特別に開帳されているほか、歴史探訪ウォークや語り

部ツアー、スタンプラリーなどが開催され、平城京を誕生させた県内各地の歴史文化力に新たな光をあてた「巡礼」「周遊」型の行催事が行われている。これまでの「賑わい・伝統行催事」に加えて、「社寺・国宝を巡る」「花と自然を巡る」など、新たな魅力を備えた歴史探訪ツアーも発信、県内各地の歴史、文化、自然等の資源を生かし、四季を通じて訪れる人々が多彩な魅力を堪能できるイベントが展開されている。

平城宮跡がメイン会場に

「やはりここしかない」とメイン会場に選ばれたのは、日本が世界に誇る歴史文化遺産「平城宮跡」。

半世紀にわたる「発掘と研究」「保存と復原」の成果が平城京の建設と国づくりにかけた人々の情熱と知恵に触れ合う展示、催事として昇華されている。

なかでも特筆すべきは、記念事業にあわせて文化庁により復原整備された第一次大極殿(左写真)。4月23日に皇太子殿下の御臨席のもと、盛大な完成式典が催され、現在、一般公開されている。そのほか会場では、往時の壮麗・壮大な都の姿や華やかな文化や役人の暮らしぶりを知ることができる「平城京歴史館」や「平城京なりきり体験館」など、本格的なフィールド・ミュージアムとしての魅力と迫力・臨場感あふれる体験・楽習ツアーを楽しむことができる(P.4～7参照)。

また、春(4月24日～5月9日)、夏(8月20日～27日)、秋(10月9日～11月7日)には、通年イベントに彩りを添える季節のフェアが開催される。

平城遷都1300年祭がめざすもの

平城遷都1300年祭は県内イベントにとどまらない。「奈良から全国へ、そして世界へ」をキーワードに、「東アジア未来会議奈良2010」として東アジアとの連携をめざす国際会議や、奈良と世界に新たな交流を生み出す多彩なコンベンション事業、関西をはじめ全国にある平城京ゆかりの地で開催されるイベントとの連携などが行われる。

平城遷都1300年祭がめざすのは、一過性のイベントに終わることなく、日本と諸外国との交流促進に寄与し、奈良全体を国際的な歴史文化観光拠点として発展させる契機となること。奈良から全国、世界へと空間を超え、大きな広がりをもって展開されていくこの事業に期待し、当会としても引き続き支援していく。(地域連携部 中澤昌弘)

平城宮跡会場マップ



- 案内所
- ♿ トイレ
- ♿ トイレ・多目的トイレ
- 🚉 鉄道駅
- 🚌 バスのりば
- 🚕 タクシーのりば
- 🚊 カート乗降所
- 🅇 駐車場
- 🚲 駐輪場
- 🚲 レンタサイクルポート
- 🚬 喫煙所
- 🛍️ 売店
- 🍽️ レストラン
- 🍷 フードコート
- 🚶 周遊ルート
- 🚶 ハートフルトラム・カート (高齢者・障害者の方が優先的に利用いただけます)
- 🚶 休憩所



©Heijo-kyo 1300th Anniv.



～行ってきました！平城遷都1300年祭～ 平城宮跡会場満喫ガイド

平城遷都1300年祭を満喫するために

■準備は万全に

会場図(P.3)を見ておわかりのとおり、会場はかなりの広さ。そして基本的な移動手段は徒歩。歩きやすい靴と服装で出かけるのが、平城遷都1300年祭を楽しむ一番のポイントです。また、これからの季節、暑さや日差しへの対策も必須。会場へは電車など公共交通機関を利用しましょう。

■会場に着いたら

まずは会場内各所で配布されている情報満載の公式案内マップを入手しましょう。リアルタイムで情報が更新される携帯サイト(<http://www.1300.jp/mobile/kyuuseki/>)も便利。



第一次大極殿で平城宮の大きさを実感

平城宮跡会場にそびえる大極殿は、2001年から9年の歳月をかけて復原された平城宮最大の宮殿。正面約44m、側面約20m、地面よりの高さ約27mで、直径約70cmの朱色の柱44本、屋根瓦約97,000枚が使われています。内部では、天皇が儀式の際、着座した玉座「高御座(たかみくら)」の実物大模型を見ることができます。ここで、少し視線を上げて見ていただきたいのが壁画。奈良在住の日本画家・上村淳之氏の手によって、四神(青龍・白虎・朱雀・玄武)と十二支が美しく描かれています。



高御座



大極殿から真南の朱雀門までの距離は約800m。はるか遠くに小さく見える朱雀門を見ると、平城宮の大きさを実感できます(入場無料)。

楽しく学ぼう～「平城京なりきり体験館」

「平城京なりきり体験館」では往時の人々の暮らしや仕事を体験したり、平城宮跡で現在も行われている発掘作業の雰囲気を味わうことができます。今回は天平衣装体験と疑似発掘体験にチャレンジしました。

■天平衣装体験(約20分・500円)

体験するのは平城京で働く宮人が身につけていた「朝服(ちょうふく)」。自分の服や靴は着たままでいいので手軽です。男性用・女性用ともに大人、子ども、幼児用の衣装が用意されているので、家族でも楽しめます。

更衣室に掲示されている説明を見ながら衣装と格闘。男性衣装の着方は簡単そうですが、女性用は重ね着するのでちょっと複雑。でも、スタッフが手伝ってくれるので大丈夫です。最後に白い比礼(ひれ)を優雅にまよえば、気分はすっかり天平美人…。

男性は横刀(おうとう)と笏(しゃく)を、女性は大きなうちわのような「さしは」を持って青い壁の前で記念撮影。“高貴な方は手を見せない”とのことで、笏や「さしは」を持つ手を見せないのがリアルに見えるコツ。「さしは」は本来顔を隠すためのものですが、それではせっかくの写真に顔が写らないのでご注意を。



できあがりの写真はコチラ。
私たちがいるのはなんと大極殿の前でした！

「もっと平城京気分を味わいたい」という方にオススメなのが、天平衣装を着て大極殿などを散策できるプログラム。南門広場に天平衣装貸出所があります(約60分・300円、天候不良時中止)。

■疑似発掘体験(約30分・500円)

優雅な天平衣装から長靴に早変わりして、いざ発掘体験へ。スタッフの説明をしっかりと聞いて、砂に足を取られないようそっと現場に入ります。スコップやシャベルなど思い思いの道具を手に発掘開始。埋まっているのは瓦や硯、木簡、土器などです。残念ながらすべてレプリカですが、宝探しのようで、思わず真剣になってしまいます。子どもさんならきっと喜ぶはず。



参加記念の
せんたくんバッジ



遺物についての説明もあります

このほかにも、墨と筆を使って木簡を作成し、当時の役人の仕事と木簡について学べる「平城宮仕事体験」(約30分・500円)や奈良の歴史や文化に触れられる「体験工房」(時間・料金はメニューごとに設定)も体験できます。

心癒される「東院庭園」

「静かで心が癒されるよ」と奈良在住の職員にすすめられたのが皇太子の宮殿があった東院に復原されている東院庭園。池の水と建物の朱色、周りを囲む木々の緑の調和がなんとも美しく、いつまでも眺めていたくなる景色で確かに心が穏やかになります。歩き疲れたと思ったら、ここで少し休憩して悠久の時を感じてみては。庭園内の散策もできます。



「本物」の魅力あふれる奈良へぜひお越しください

社団法人 平城遷都1300年記念事業協会常任理事・事務局長 林 洋氏

平城遷都1300年祭には、関係連会員企業の皆さまにも多大なご協力をいただきました。この場を借りて心より御礼申し上げます。

平城遷都1300年祭は、日本のはじまり奈良・平城京に都が置かれてから1300年という大きな節目を記念する事業です。会場は奈良という一つの地域ですが、その趣旨は日本全体にかかわる志の高いものであることが事業の特徴です。そして、もう一つの特徴は「本物」をそのまま発信していることです。奈良の魅力は、歴史的にも文化的にも貴重な「本物」が今日まで多数残っていること。特別史跡のためさまざまな制約があっても平城宮跡をメイン会場として選んだ理由もそこにあります。また、「秘宝・秘仏の特別開帳」は、ご協力いただく52社寺が持つおられる「本物」を発信する事業です。来訪者数の大幅な増加など、おかげさまでわれわれの予想以上の反響があり、関係の方々にも「本当にやってよかった」と喜んでいただいています。

平城宮跡会場の見どころはまずは何と言っても第一次大極殿です。外観はもちろん、天皇の玉座である高御座や四神と十二支の壁画など内部もぜひご覧ください。平城京歴史館の最新のバーチャルリアリティを駆使して再現された平城京の映像も

非常に見ごたえのある仕上がりです。その素晴らしさをぜひ実感していただきたいですね。そのほかにも平城京の時代にタ

イムスリップしたように感じていただけるプログラムを多数用意しています。さらに春・夏・秋にはそれぞれ違うテーマでフェアを開催し、何度お越しいただいても楽しんでいただける工夫を凝らしています。お祭りとして心から楽しんでいただくのはもちろん、平城遷都1300年祭の意義、そして奈良の「本物」の魅力を皆さまに感じていただき、奈良の良さに気づいていただき、また訪れていただけるようにとの思いで取り組んでいます。

今後の課題は、今年の盛り上がりをいかに持続的な発展につなげるかです。「記紀・万葉プロジェクト」といった今年に続く仕掛けづくり、そして宿泊や交通機能の充実、「食」や「土産」のブラッシュアップなど、ソフト・ハード両面からのトータルな魅力づくりが必要でしょう。奈良が盛り上がりれば関西全体の発展にもつながるので、ぜひさまざまな取り組みを続けていきたいと考えています。



必見、「平城京歴史館」

林事務局長も見どころの一つにあげられた「平城京歴史館」(入館料500円)は、館内から甲板へ乗船もできる原寸大に復原された遣唐使船が目印。



入口すぐの日本と大陸を隔てる海をイメージしたタイムトンネルを抜けると広がる平城京の世界——。

館内では、遣唐使が結んだ東アジア交流の歴史をテーマに映像を駆使したさまざまな展示が繰り広げられます。映像の随所に登場する「せんとくん」も要チェック。

■遣唐使シアター(上映時間約9分)

遣唐使たちが命がけで海を渡り伝えたものが日本の国づくりや文化の発展を支えたことや彼らの思いが、752年に唐をめざした吉備真備たちの視点を通して描かれます。難波津から九州を経て長江へ、そして陸路で長安へといった唐への道のり、遣唐使船に乗っていた人々や積荷についてなど、解説も充実。これを見れば気分はすっかり遣唐使?!

■遣唐使船復原展示

遣唐使気分のまま甲板に立てば、「国のために」と旅立った遣唐使たちの使命感が感じられる…かも。わずかな資料を手がかりに推定して復原された遣唐使船は、全長約30m、全幅約10m、地面から帆先まで高さ約15m。前後に2本の帆柱を持つ帆船で、竹や葦を薄く削ったものを平らに編んで作った網代を竹で縛ってつなぎあわせた「網代帆」が特徴です。

■平城京VRシアター(上映時間約12分)

通訳として平城京にとどまった外国使節団の一員の回想で物語は展開します。彼に朱雀門や大極殿を案内するのは粟田真人や若き日の阿倍仲麻呂。都づくりの始まりから大きく発展していく在りし日の平城京の姿が目の前いっぱい広がる5面マルチスクリーンで紹介されます。鳥になったように俯瞰で都の様子を眺めていたかと思えば、自分が実際に大路を歩いているかのような景色が展開されたりと、VR(バーチャルリアリティ)の名の通り、リアルに平城京の壮大さ



これ、映像です!

を感じられる映像は迫力満点。今も残る寺院などの当時の壮麗な様子が再現されているのも見どころの一つ。必見です。なお、このシアターを出ると館内には戻れないので、見たいところはそれまでにぜひ。

まだまだあります、平城宮跡会場の見どころ

■衛士隊の再現(観覧無料)

平城宮の城門警護を担っていた衛士(えじ)の警護の様子を再現。朱雀門広場では朝夕に朱雀門を開閉するアトラクションが、昼には南門広場で衛士が交代するアトラクションが見られます(日程や催事により変動あり)。

■あをによしパレード(観覧無料)

交流広場を起点に宮跡内で行われるパレード。KUNITSUKURIをテーマに、異文化との交流、仏教の興隆、天平の華やかさなど、国のはじまりをイメージするパフォーマンスが繰り広げられます。11:00からと14:30からの2回開催(日程や催事により変動あり)。



■平城宮跡探訪ツアー

平城京の歴史をじっくり知りたい方に。エントランス広場の探訪ツアーセンターを拠点に宮跡内をボランティアガイドと周遊するツアーです。1.5時間コース(300円・1日8回開催)と2.5時間コース(500円・1日1回開催)があり、団体参加ならホームページから予約も可能。その他、英語・中国語・韓国語での約1時間のガイドツアー(無料)や解説案内専用の携帯端末によるセルフガイドシステム(500円)もあります。

■ランチやお土産もおまかせ

お食事やお土産も楽しみの一つ。エントランス広場と交流広場にはフードコートやショップ、案内所など

お客さまのニーズにこたえる施設がそろっています。

フードコートでは奈良県産の素材を使ったさまざまな料理を。ぬいぐるみやお菓子など



公式記念ショップにはせんとくんがいっぱい

せんとくんのオリジナル商品が並ぶ公式記念品ショップ、奈良や平城京にゆかりのある品々がそろった「奈良の味館」「奈良土産館」「平城京ゆかりバザール」など、お土産はここで。

夏・秋にはそれぞれ季節のフェアも開催され、会場はさらに盛り上がります。そして、見どころは平城宮跡会場だけではなくありません。少し足を伸ばせば、東大寺・興福寺・西大寺など往時の姿を今に伝える寺院などを訪れることもできます。

ぜひ何度も会場に足を運び、季節ごとに違った表

情を見せる平城宮跡を楽しみ、「日本のはじまり奈良」を肌で感じてください。(秘書広報部 岡田真紀)

平城宮跡会場インフォメーション

開催期間：2010年4月24日(土)～11月7日(日)

開催時間：通常9：00～16：30

8月までの土日・祝日は17：30まで。

夏季フェアでは夜間イベントを実施。

最寄り駅：近鉄大和西大寺駅(会場まで徒歩約10分)

同駅およびJR奈良駅から無料シャトルバスあり

問い合わせ：平城遷都1300年祭コールセンター

TEL 0742-25-2010

FAX 0742-20-0710

受付時間 8：30～17：30

URL：パソコン <http://www.1300.jp/>

モバイル <http://www.1300.jp/mobile/kyuuseki/>

*プログラム、イベント、各季フェアの詳細はホームページで確認してください。

これからの各季フェア

夏季 光と灯りのフェア 8月20日(金)～27日(金)

■平城宮光の回廊(平城宮跡会場 18：30～21：00)

朝堂院を中心に「光と灯り」の演出や夜のバレード、光・影・音が醸し出す相乗効果による幻想的な演出などで魅力空間を形成。灯りの演出で、新たな平城宮の魅力を展開。

- ・平城宮跡内での幻想的な光と灯りの展示や演出、奈良の伝統行事をモチーフにした灯りのバレード
- ・第一次大極殿や朱雀門等のライトアップ
- ・多彩なアーティストが出演する夕涼みコンサート など



秋季 平城京フェア

10月9日(土)～11月7日(日)

■大極殿音絵巻(第一次大極殿前庭 特設会場 18：00～20：00頃)

世界的な著名アーティストや奈良ゆかりのアーティストによるオリジナリティあふれるスペシャルステージ。

プログラム予定

- 10月 10日(日) 宮内庁式部職楽部による雅楽公演
- 11日(月・祝) 東京スカパラダイスオーケストラ
- 16日(土) 西本智実プロデュースライブ
- 17日(日) 葉加瀬太郎プロデュースライブ
- 23日(土) スターダスト・レビュープロデューススペシャルライブ(仮)
- 24日(日) 谷村新司プロデュースライブ

■東院庭園音絵巻(東院庭園広場 18：30～19：15頃)

奈良時代、「宴(うたげ)」で歌舞音曲が演じられたことにちなみ開催。日本人の精神性や美意識などを生楽器による音楽などで再現し、平城京期そのままの雰囲気が体感できるプログラム。

10月29日(金)～11月6日(土)開催(11月1日、4日は除く)。

プログラムはホームページを参照。

■天平茶会(東院庭園広場)

奈良時代に飲まれたとされる茶を「天平茶」として再現。その過程を紹介するとともに、往時の喫茶の持つ風情を楽しめる憩いの場が広がる。

10月9日(土)～11月7日(日)開催。

■平城京ミステリークエスト(平城宮跡会場)

平城宮跡で起こる奈良の歴史や文化をモチーフとした「ミステリー」を読み、参加者が「探偵」となって「冒険＝クエスト」を繰り広げる参加型イベント。

■平城京カーニバル(平城宮跡会場)

平城京フェアのフィナーレを飾る祝祭カーニバル。会場内各所でさまざまな団体による参加型バレードパフォーマンスが展開され、第一次大極殿前庭ではスペシャルパフォーマンスが披露される。11月7日(日)開催。

このほか、古代行事の再現などのプログラムも予定。

